

# あいち病害虫情報 最新情報

令和2年9月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## トビイロウンカによる坪枯れ、拡大中

水稻では、9月3日付でトビイロウンカを対象に「令和2年度病害虫発生予察警報第1号」を発表しました。トビイロウンカによる坪枯れは西三河地域、東三河地域で確認されています。また、県内に設置している5か所全ての予察灯（長久手市、弥富市、大口町、西尾市、豊川市）において、本虫の誘殺を確認しています。坪枯れが近隣のほ場を含めて発生した場合は、収穫までの日数を考慮の上、防除あるいは早めの収穫を行いましょ。尾張地方で坪枯れの発生は確認されていませんが、尾張地方の予察灯での誘殺が確認されていることから、今後坪枯れが発生する可能性があります。今後のほ場の状況に注意しましょ。

## イネ白葉枯病

尾張地域で白葉枯病が多く発生しているほ場が見られます。9月上旬の大雨によりほ場が冠水した地域では、さらなる発生拡大が懸念されます。今作で被害が目立つ場合、次作の伝染源量を減らすため、年内の耕起や次作での育苗箱施薬等の対策を検討しましょ。

## コブノメイガも多発

県内各地でコブノメイガの多発ほ場が確認されています。止葉の被害が多くなると収量に影響します。多発ほ場では、特に普通期、晩植栽培のほ場で収穫まで期間がある場合は、成虫発生ピークの7～10日後を目安に防除を行いましょ。

## ダイズの害虫

8月下旬の巡回調査における吸実性カメムシの発生量は平年並です。しかし、名古屋地方気象台9月10日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、本種にとって好適な条件となる可能性があります。詳細は、本日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号」を参照してください。

県内のダイズほ場において、8月下旬の巡回調査でシロイチモジヨトウの発生及びハスモンヨトウによる白変葉を確認しています。いずれの種もふ化後しばらくは集団で生息し、齢期が進むにつれて次第に分散します。そのため、幼虫の寄生を確認したら、速やかに防除を行いましょ。なお、フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、地域によりかなり差が見られます。ほ場での発生状況に十分に注意しましょ。

## 果樹の病害虫

豊橋市に設置したチャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数が8月第4半旬から第6半旬にかけて急増し、その後平年より多い状況が続いています。名古屋地方気象台9月10日発表の1か月予報によると気温は高いと予想されていることから、今後も果樹カメムシが活発に活動し、果樹園への飛来増加に伴う被害発生のおそれがあるため、注意しましょ。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は一部地域でやや多い傾向にあり、特に西尾市では8月第3半旬以降急増し、平年よりも多く誘殺されています。秋季はナシ

ほ場への成虫の飛来が続くことがあるので、発生の多いほ場では収穫前日数に注意し、防除しましょう。

モモせん孔細菌病の病原菌は枝や落葉痕部の組織内で越冬し、次作の伝染源になります。8月17日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参考に、枝病斑の除去や農薬による秋季防除を実施しましょう。

ナシ黒星病が発生しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋季防除を実施しましょう。近隣に収穫を控えているほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、飛散防止に努めるとともに、収穫前日数に注意しましょう。

ブドウべと病による早期落葉および次作の越冬源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋季防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

### シロイチモジヨトウの発生多い！

9月上旬の巡回調査におけるキャベツのシロイチモジヨトウの発生量は、過去10年で3番目に多い状況です。フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、**田原市のキャベツほ場で多い状況**です。名古屋地方気象台9月10日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されているため、今後も多く推移すると予測します。ほ場での発生に注意し、防除を徹底しましょう。防除対策等は、本日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第8号」を参考にしてください。

### ハスモンヨトウの発生多い！

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は野菜類では**多い状況**です。キャベツにおけるほ場での発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並ですが、発生の多いほ場もあるため、注意が必要です。詳細は、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

### ダイズ、野菜類、花き類のチョウ目害虫

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、**東三河地域ではやや多くな**っています。ダイズではこれからの時期は子実も加害されます。キャベツでは結球部に食入すると防除が難しくなり、キクでは、生長点付近や花蕾が食害されるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。防除については、7月31日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

コナガのキャベツほ場での発生量は、9月上旬の巡回調査では、平年並です。ほ場をよく観察し、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

ハイマダラノメイガのキャベツほ場での発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並ですが、育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

### アブラナ科野菜の細菌性病害に注意！

黒腐病、軟腐病などの細菌性病害は降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は、病原菌の侵入口となるので、台風などの激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。名古屋地方気象台9月10日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並の見込みですが、悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

## **イチゴ炭疽病、萎黄病に注意！**

イチゴの炭疽病は、7月下旬の巡回調査で発生量が多い状況でした。炭疽病は萎黄病とともに、気温が高いと発生が助長されます。また、炭疽病は台風などの風雨で発生量が増加します。育苗ほで両病害の発生がある場合は、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は症状が無くても同様に処分しましょう。定植には発病株や発病が疑われる株は絶対に使用しないようにしましょう。本ほで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。炭疽病については7月31日発表の「令和2年度病害虫発生予察注意報第6号」も参考にしてください。

## **イチゴのハダニ類**

イチゴのハダニ類は、8月下旬の育苗ほにおける調査で発生量が多いほ場がありました。本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。

## **トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病**

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室  
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820